

メデイカルNOW

= JCHO 九州病院 基本理念 =

「愛と信頼そして納得」の医療を実践し社会に貢献する。

基本方針

- (1)「病める人」と共に、相互理解と信頼を深め、納得ゆく医療を実践する。
- (2)急性期・専門医療を中心に最適・最良の医療を多くの人へ提供する。
- (3)関係機関と連携し、生涯にわたる継ぎ目のない地域医療の実現に貢献する。
- (4)医療の質向上のために日々研鑽するとともに、将来を担う優れた医療人の育成に努める。
- (5)全ての職員がこの病院で働くことに誇りと生き甲斐を持ち、
幸せを感じることの出来る職場を作る。



独立行政法人地域医療機能推進機構





Medical Now 2023 winter



2023年 年頭所感



院長
内山 明彦



新年明けまして おめでとうございます。

JCHO九州病院の広報誌 Medical Now令和5年新年号の発刊にあたり、年頭のご挨拶を申し上げます。

2022年を振り返ると、コロナ禍3年目となり、1, 2月の第6波、7, 8月の第7波、そして12月からの第8波と3度の感染拡大の波を経験してきました。ウイルスの感染力が強まり、新規陽性者数は以前よりも著しく増加し、同時にコロナ陽性あるいは濃厚接触による職員の欠勤者数も大幅に増加しました。このため、救急外来や複数の病棟の機能が一時2～3週間の間停止し、地域住民、医療機関の皆さまには多大なご迷惑をおかけしました。この場を借りてお詫び申し上げます。しかし、以前のようなコロナ肺炎による重症化例は少なくなり、基礎疾患のある方が陽性となって入院する例が多くみられています。2023年に入り、新規陽性者数の増加は依然続いていますが、徐々にインフルエンザと同様の扱いへ移行していくものと思われます。ただ、感染力は強いため、病院内での感染対策については、大きな変更は当面ないと考えています。

昨年から上記のような新型コロナウイルス感染拡大の波を経験する中で、コロナ対応だけでなく、出来る限り通常診療を維持することに留意してきました。2月にハイケアユニット(HCU) 22床を2か所へ集約する改修工事が完了し、集中治療室(ICU) 12床と共に重症患者の受け入れ、治療がより円滑に行えるようになっていきます。当院は多くの領域をカバーする急性期総合病院ですが、特にがん、循環器、救急、小児・周産期医療を4つの柱としてきました。2023年は、当院が担うべき役割、診療機能を維持しつつ、病院機能評価の受審や電子カルテ更新などの機会も利用し、様々な業務の効率化、デジタル化を進めていく必要があります。同時に、コロナ禍で希薄になりがちであった人と人との対面での交流も徐々に復活させていきたいと考えています。今年は多くの課題を抱えています。働き方改革への取り組みも進めながら、職員にとって働きやすい環境を整えることにも留意していきたいと思っております。そして地域の皆さまとともに、医療面での社会貢献を一層推進していく所存です。

本年もどうぞご指導・ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



がん相談支援センターを活用しよう



●ご利用について

当院は **1 階 入退院センター奥**（医療支援部内）にがん相談支援センターを設置しています。がん相談専門の看護師、ソーシャルワーカーがご相談内容に応じて必要な情報提供、連絡調整など相談対応致します。当院に受診していなくても**どなたでも、無料で、匿名でも**、相談が可能です。相談内容に関する**秘密は厳守**いたします。

お困りのこと、不安なことなどありましたらお気軽にがん相談支援センターにご相談ください。

受付時間	平日 9 時～17 時
予約	不要
時間制限	30 分以内
電話番号	093-641-9715（直通）
FAX 番号	093-641-9645（直通）
E-mail	k-shienbu@kyusyu.jcho.go.jp



がん相談支援センター入口

●がんに関する情報

インターネット上には膨大な情報があり、その中から自分に合った確かな情報を見つけ出すことは非常に難しいかもしれません。インターネットで情報を探すときは、「確かな入口」から入ることがとても大切です。まずは、国立がん研究センターが運営する**がん情報サービス**を検索してください。



がんに関する確かな情報は
がん情報サービスへ

●がんサロンについて

当院では定期的に（奇数月の第4月曜日）患者さんやご家族が気軽に集える場所を設けています。先日のがんサロンでは3名の方にご参加いただき、「がんとお金」をテーマに公的な社会保障制度についてお話をさせていただきました。その中で、「私がどの制度に該当するかはどこで相談できるのですか？」とご質問がありました。がん相談支援センターで個別にご相談に対応できることをお伝えしましたが、がん相談支援センターがまだまだ周知されていないことを実感しました。がんと診断されたらがん相談支援センターをまず知っていただくこと、何か困ったことがあったときに相談できる場所としてがん相談支援センターを思い出していただくことがとても大事だと思います。

JCHO 九州病院 医療社会事業専門員 / 認定がん専門相談員 木村 円

診療看護師(NP)とは

海外では、ナースプラクティショナー（以下 NP）という職種が活躍しており、日本でもテレビドラマ「ザ・トラベルナース」で俳優の岡田将生さんが米国の NP を演じ話題となっていた?と思います。米国では、医師不足が続いており、社会的ニーズに応える形で看護師の職能が拡大され、現在約 35 万人の NP が活躍しています。米国 NP は、身体検査、治療計画の作成、薬剤処方、画像診断など実施できる医療行為は州ごとに異なりますが、医師の監督がなくても診察・診断、治療のオーダーを行うことができるようになっています。



看護部 診療看護師 (NP)
福田 和行

我が国では、超高齢社会を迎え医療・介護の課題に対して、2008 年から大学院修士課程において NP の養成が開始、現在は診療看護師 (NP) と呼称され、全国の病院や診療所・老健施設・訪問看護ステーション・大学等で約 670 名（令和 3 年度、NP 資格認定者）の修了生が活動しています。



当院では卒後研修を経て、令和 3 年度から 1 名の診療看護師 (NP) が麻酔科と救急科で活動しています。医師や看護師、コメディカルと協働し、効果的な手術室運営、安全な手術麻酔の提供、救急車応需率向上、タイムリーな医療・看護の提供に貢献しています。診療の質を維持しながら、ケアの側面も提供できる診療看護師 (NP) として、医師、看護師、コメディカルといった職種間の橋渡しを担い、九州病院のチーム医療強化に貢献していきます。

診療看護師 (NP) が実践する看護

「呼吸を整えるための看護」

【看護】

基本：① 換気や湿度を適度に保つ、安楽な体位の保持等

現在：①+②吸引や体位ドレナージ

：①+②+③人工呼吸器の調整や気管カニューレの交換

看護師

特定行為研修
修了者

進化：①+②+③+採血の必要性の*判断⇒実施

利尿剤や去痰剤の*判断⇒処方等

※当院では医師の直接・包括的指示の下実施

診療看護師(NP)

患者様の「症状」をタイムリーにマネジメントし、重症化の予防、療養の質向上に貢献します

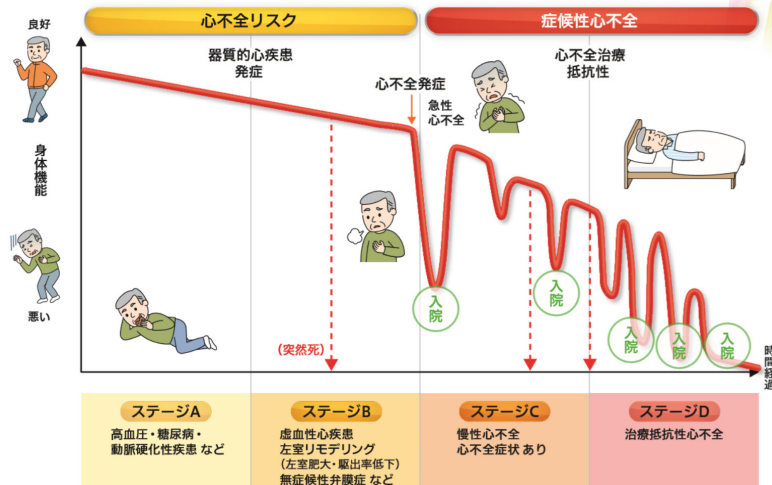
出典：日本看護協会第 3 回 NP 交流会資料を抜粋し改定



ちよこつとリハビリ

心不全と運動の重要性

心不全のリスクと進展ステージ



出典：尼崎医療センターHP

心不全とは

心臓の機能が悪いために息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなって生命を縮める病気になります。その原因となる心臓の病気には、狭心症や心筋梗塞、心筋症、心臓弁膜症、不整脈などがあります。症状がよくなっても心不全が完全に治ったわけではなく、図に示す様に悪化や改善をくりかえしながら徐々に進行していきます。生活習慣に気をつけて急激な悪化を予防しながら、心不全とうまく付き合っていくことが大切です。



リハビリテーション室 理学療法士
椋島 寛子

運動の効果

心不全に一度なると運動耐容能＝活動や運動に耐えられる能力が低下します。今まで苦にならなかった日常生活や運動ができなくなっていくます。また心不全を繰り返すたびに徐々に運動耐容能は低下します。適切な運動を行うことで体力の向上や心不全増悪を予防できることは色々な研究で証明されています。

運動の種類

- ・有酸素運動：歩行、自転車エルゴメーター、リズムカルな体操
- ・筋力トレーニング：自身の体重やゴムバンドなどを使用する運動
- ・バランストレーニング：つま先と反対のかかとを揃えた立位など



運動の強さ

「息切れをせずに、会話をしながら続けられる程度」が目安です。また、自覚症状が「楽である」から「ややきつい」と感じる程度として、翌日に疲れが残らないようにしましょう。



運動の時間や回数

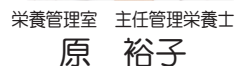
1回あたり10～30分を目安に、軽めの運動は週に3日以上を目標にしましょう。

この症状に要注意！！

- ①体重が増加しむくみが増えている ②安静時、運動時の息切れが悪化している ③めまいや動悸がする ④食欲が著しく低下している ⑤睡眠不足が続いている ⑥何もしていないのに疲労感が続いている…

これらは心不全が悪くなっている兆候です、症状が続くときは病院へ早めに受診しましょう！！

出典：心不全手帳



A decorative graphic featuring a blue stylized 'C' shape, two orange musical notes, and a circular stamp. The stamp contains the text 'MEDICAL MEDICAL RECIPE MEDICAL RECIPE' around the perimeter and a drawing of a spoon and a fork in the center.

○時間栄養学とは

その土台となるのが「体内時計」です。睡眠・体温・血圧などのリズムを整える機能のことです。

○朝食

朝からそんなに食べられないという方は夕食の摂り方を見直します。

○夕食

夕食は18時と21時とで比較すると、3時間遅くなる21時の方が食後の血糖値のピークが高く、夜間の高血糖が持続し、肥満や糖尿病の発症リスクを高めます。夕食が遅くなる方は、夕方(16時～17時)にオニギリやサンドイッチの炭水化物を食べ、帰宅後の遅い時間には野菜とおかず(たんぱく質)というように夕食を2回に分けて食べることで、食後の血糖上昇や夜間の高血糖を抑えることができます。

○昼食

脂質を多く含む食事（肉類や揚げ物）などは昼食に摂るといいでしょう。

遅い時間の食事は2回に分けてとりましょう

①職場で18時か19時頃に



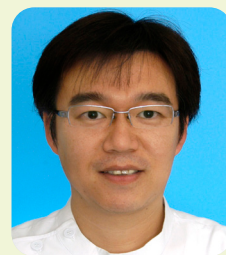
②帰宅後の遅い時刻に



特定保健指導では、自ら生活習慣を振り返り生活習慣病にならないような目標設定を、私たち管理栄養士がお手伝いしています。対象となった場合は面倒だと思わず、ぜひ受講してみてください。お待ちしております。



“ポリファーマシー”を ご存じですか？



薬剤部 副薬剤部長
吉国 健司

ポリファーマシーとは、ポリ(複数)とファーマシー(調剤)を合わせた言葉ですが、服用する薬剤数が多いだけでなく、多剤服用の中でも害をなしているものが、特にそう呼ばれています。

高齢になると複数の病気にかかる人が多くなり、それぞれの病気に対して医療機関を受診するため、薬が増えることがあります。

薬の数が増えると、薬がお互いに影響し合うこともあり、薬が効きすぎてしまったり効かなかったり副作用が出やすくなったりします。

高齢者は、身体機能が低下し、肝臓や腎臓の働きが弱くなり、薬の効き方に変化が起こるので、注意が必要です。薬が追加されたり変わったりした後は、特に副作用症状に注意しましょう。

(例: 食欲低下、眠気、便秘、めまい、ふらつき・転倒、物忘れなど)

薬の副作用による症状が起こったとき、新たな病気と思い込み、違う病院を受診していませんか？ 副作用の原因となる薬を中止することでおさまる可能性があります。新たな薬が追加され悪循環になることがあります。

当院ではポリファーマシー対策を行っています。

必要以上の薬や不必要な薬をのみ続けているかなど、気になることは医師、薬剤師に相談しましょう。

勝手に薬をやめたり減らしたりはしないでください。

薬をのみ忘れている場合は必ず伝えましょう。

☆ご不明な点は、主治医または薬剤師にお問い合わせください。



(患者の声) (病院回答)

「みなさまの声」のコーナー

※病院の各部署に寄せられたご意見、お褒め等の声を参考に改善、励み等にしていきたいと思えます。

「患者の声」お褒め等

父が入院していますが、担当看護師の方、主治医の先生、緩和ケアの先生ありがとうございました。

私達、家族の話を親身になってよく聞いてもらい感謝しております。

とても温かい病院です。病棟の看護師の方々、日々大変でしょうが頑張ってください。

わがままな父をよろしくお願いします。

「患者の声」ご意見等

午後から仕事のある娘に入院中の荷物を持って来てもらったのだが、その際ナースステーションの隅の受付での対応においてケンカを売るような言い方をされたとの事でした。

笑顔ではとは言いませんが、一般的な失礼のない対応をしていただきたいです。

病院 - 回答

この度は、不愉快な思いを抱かせてしまった事、心よりお詫び申し上げます。

面会制限のある中、患者さま・ご家族の方が不安な気持ちで過ごされていることを気遣い、誠実な対応をとるよう心がけておりますが、配慮が不足しておりましたことを重ねてお詫び申し上げます。

このようなことが再びないようスタッフ一同、ご家族の方に不愉快な気持ちを抱かせるような対応がないよう接遇に留意してまいります。

この度は貴重なご意見ありがとうございました。

総務企画課長

独立行政法人
地域医療機能推進機構



九州病院

〒806-8501 北九州市八幡西区岸の浦1丁目8番1号
TEL (093) 641-5111 (代表) <http://kyusyu.jcho.go.jp>

メディカル NOW VOL.35 2023年1月発行

発行責任者: 内山 明彦 編集者: 山本 勇
制作: シンヤプリントファクトリー TEL (093) 922-6373